

広島東COREネットワーク

目的

- (1) 中山間地域に所在する高等学校の生徒が、距離や場所に捉われることなく質の高い学びを享受できる体制を構築する。
- (2) 中山間地域に所在する高等学校の生徒が、地域への愛着や理解を深め、次代を担うリーダーとして活躍するための資質・能力を育成する。

県内中山間地域における高等学校の現状

- 多様な選択科目や学校設定科目を開設することができない
- 生徒の学力に応じた習熟度別指導を行うことができない
- 免許外の教員や、専門でない教員が担当している授業がある
- 地元中学生が、自身のニーズに応じた教育内容を求めて都市部の高等学校へ進学している

1. 遠隔事業に関する取組の概要

- 遠隔教育システムを県東部、西部、中央の3地域に導入
- 県東部（「広島東COREネットワーク」）のグループを本事業の指定地域とし、先進的な調査・研究を実施
- 多様な選択科目が開設できる体制を構築
- 免許外の教員が担当する授業の削減



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- 構成校の取組を把握・分析し、成果及び課題を明確にする、運営指導委員会及び運営協議会の設置
- 学校外の教育資源を活用した、特色ある教育課程の編成・実施

3. ネットワークを構成する学校

東 (文部科学省委託事業対象)	福山誠之館高等学校、油木高等学校、東城高等学校、日彰館高等学校
西	広島国泰寺高等学校、佐伯高等学校、加計高等学校、加計高等学校芸北分校
中央	呉三津田高等学校、大柿高等学校、賀茂北高等学校、大崎海星高等学校

※下線は都市部の高等学校

広島東COREネットワーク

育成を目指す資質・能力

中山間地域に所在する高等学校の生徒が、地域への愛着や地域に対する理解を深め、次代を担うリーダーとして活躍するための資質・能力(情報活用能力, 問題発見・解決力等)。

主なアウトプット(活動目標)

遠隔授業の実施科目数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
実績	0科目			
見込み		3科目	6科目	8科目

授業以外で遠隔教育システムを活用する機会の増加

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
実績	0回			
見込み		28回	96回	144回

指導主事による学校訪問指導回数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
実績	2回			
見込み		6回	6回	6回

主なアウトカム(成果目標)

学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		17%	20%	23%
実績値	15%			

遠隔教育システムを活用して実施した教育活動に対する満足度

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		85%	90%	95%
実績値	新規			

次代を担うリーダーとして活躍するための資質・能力の育成

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		43%	46%	50%
実績値	40%			

委託期間終了後の見通し

県内12校の遠隔教育システム設置校では、調査研究の成果や課題を基に、引き続き遠隔教育や地域の課題解決に向けた探究的な学びに関する取組を継続する。

3年間の成果によっては、遠隔教育システム設置校を増やすことも視野に入れている。